

(様式 4)

【有田川町】

1人1台端末の利活用に係る計画

1. 1人1台端末を始めとするICT環境によって実現を目指す学びの姿

本町では、これまでにA Iドリルやクラウドツール等を活用して「個別最適な学び」と「協働的な学び」の充実を図ってきた。これまでに蓄積してきた知見を基盤とし、より一層I C Tの利活用を進め、児童生徒一人一人が自分自身の資質・能力を高めていくことができる「子供が主語となる授業」の実践を重ねていく。

1人1台端末等をはじめとするI C T環境を整備し、児童生徒が自分自身の現状を把握し、自らの学びを選択し決定していける主体的な学習者の育成を目指す。

2. GIGA第1期の総括

令和2年度に1人1台端末整備及び各学校のネットワーク環境整備を行い、令和3年度から各校で活用を進めてきた。当初導入していたクラウドサービスだけでは活用が進まなかったこともあり、GoogleのクラウドツールやA Iドリル等を順次導入していくことで、I C Tを活用した学びが広がっていった。また、休校時のオンライン授業の取り組みや持ち帰りを進めたことでも端末の利活用が進むこととなった。

本町では、端末を利用した事例等を持ち寄り、定期的に研修会を行ってきた。小中学校の校種を超えた実践交流を行うことで、効果的な指導法について研究を深めることができた。しかし、教職員のI C T活用指導力における個人差が解消できていないため、引き続き研修の実施や授業実践例の情報共有により、教職員のI C T活用指導力の向上を図る必要がある。ただし、I C Tは児童生徒の資質・能力の向上を図るためのツールとして活用することを目指す。

タブレット端末を使うことを目的とはせず、学習の本質を大切にした授業作りにI C Tが位置づくように研究を深め、教職員の学習指導の改善に役立てていく。

3. 1人1台端末の利活用方策

今回の端末整備・更新に向け、児童生徒が学習を進めやすく、教師も校務や研修で利活用しやすい環境を整え、授業内外での活用の幅を広げていく。

1人1台端末の積極的活用に向けて、引き続きI C Tに係る研修を実施し、教職員へ効果的な活用についての情報共有を図っていく。

個別最適・協働的な学びの充実を進めていくために、A Iドリルについては、現在導入しているものを活用し、個別最適な学びの実現を図る。また、児童生徒が考えを構築しまとめ、伝えていく活動が行いやすいクラウドツールや教師が学びを見取りやすいツール等を整備していく。

学びの保障については、これまでもオンライン授業の実施してきているところであり、様々な状況の児童生徒に学習機会を確保していく。